

最近の作陶

浦野 勝雄

作陶を自己流で始めて 30 年くらいになります。当初は壺、湯呑、酒器、壺、茶わん、皿などを作ってきましたが、最近はあまり造る気が起こりません。磁器製の 100 キン器に比べると重く、厚い陶製の器は家族からも歓迎されません。

現在も世田谷区陶芸協会という会にはいていて、毎週土曜日に作陶するグループに入っていますが、気が向いた日以外は行きません。最近茶わんなど、生活用品を作る代わりに時代を反映させる「何か」器を作りたいと考えています。

コロナ パンデミック、アメリカの大統領、ロシア・ウクライナ戦争、ハマス・イスラエル戦争、イラン・アメリカ闘争、など加えて日本は安保問題、関税問題、物価上昇、米価問題、また大災害が続出、大きな問題が続いています。今世紀の初め 2001 年のナインイレブン (9・11) 事件ころから世界の秩序が変わり、先が明るくないように感じ、大混乱時代が来るような予感がしていました。

次世代の平和を維持するには日本はどうしたらよいかと考えねばと思うこのごろです。

昨年の展示会には GAZA, とロシア兵のブーツを形にし、出展しました。

1. ハマスとイスラエル戦争

GAZA 地区の地下世界と地上居住空間をイメージした花入。 GAZA へはタイミングの関係で行くことはできませんでしたが、現在は廃墟と化していますが TV 等で見るとコンクリート壁で外に出られないように海岸線を除いた 3 面が高い壁で囲われている狭い場所に約 200 万人が生活していました。

死海のイスラエルの対岸ヨルダン側台地、エルサレムのビルが見える位置で仕事をしていた時、イスラエルの軍用機が飛んできました。ヨルダン人スタッフに聞くと、何を建設しているか見に来るのだとっていました。ヨルダン川の水の過剰使用 (灌漑用) が原因で死海の水位も毎年低下、近い将来水がなくなることが懸念されています。新たな水争いがおこる可能性があり、この地帯の問題の深さを感じました。



GAZA 花器

2. ブーツ型花器

ロシアは2022年2月24日ウクライナへ侵攻しました。侵攻開始時多くの専門家が、じきにロシア敗退し、戦いは終わるだろう、プーチンは癌に侵されている、みたいな論調が多くありました。希望的観測であったのであろうが、3年過ぎても続いています。専門家の論考もあまりあてにできません。アメリカの約束違反、しかも国と国との約束破棄がリーダーの交代で簡単に起こることを考えると、日本へも大きな教訓をあたえた事例です。アメリカの初代大統領「George Washington」が下記のように言っていますがウクライナは信じてしまったようです。

「国家間の真の好意を期待したり、あてにすることほど大きな間違いはない。

それは体験によって治さねばならない幻想であり、正しい自尊心を持つならば捨て去るのが当然だ。」



ロシアのブーツ型器

3. 宇宙と人類の愚かさは無限大

アインシュタインは「宇宙と人類の愚かさは無限大」と言っています。人類誕生 20 万年前と言われていますが、以来休むことなく人間は戦い続けてきました。前世紀 2 回の世界大戦後は少しか戦いの愚かさが分かったように世界が感じているように思えたが、依然として戦い続けています。

私は 21 世紀を迎える数年まえに昭和シェルを卒業しました。この時、21 世紀は平和な素晴らしい世紀になることを期待し、第 2 の人生をスタートするのに良いタイミングだと考えていました。しかしながら前出したナインイレブ後、日本も世界も大災害が頻発、パンデミック、戦争が勃発し大変な世紀になってしまいました。すでに 4 分の 1 世紀を経過しましたがこの先もあまり期待できません。

戦争はなぜ起きるのか 進歩したと自負している人間も結局はサルやほかの動物と変わりなく、縄張り争いから脱却できなでいる、多分遺伝子に組み込まれているのだと思っています。これを表現できないか考えて作成した器です。実際に表現できたかどうかは疑問で、考え続けています。



The universe and human stupidity are infinites

4. 心臓型器

2021年3月寒い夜、電車から降りた時、外気を吸い込んだ途端に足、腰に力がなくなり、その場に崩れてしまいました。人生初の経験でした。15分くらいずくまっていたら、自然に立ちあがれました。家に帰りPCで調べ心筋梗塞の症状だということが分かりました。その後症状は出ず、生活できたので、たいしたことはないとおもっていましたが、雪山へ行く計画があったので、念のため近所の病院へ行き診察したところ、山どころでないと言われました。すぐに榊原記念病院へ行って、カテーテル検査を受けたところ左冠状動脈主管部（写真の中央の太い血管）が約75%~80%細くなっていました。そこで自分も心臓のモニターの画面を見ながら、ステントを入れ血管が開いた途端に血液が音とたてて流れるような感じを受けました。若い医師と話をしながら人間の主要部品の精緻さを改めて感じた瞬間でした。以後の食生活の大切さと制約を忘れないように心臓模型器を作りました。現在、油肉カットと減糖分の辛い食生活を続けています。



心臓型器

以上のような物を作っています。